

EPs TA Version2 の進捗状況と今後の進め方

24年1月18日 第9回 JEC 観光部会
観光技術検討会

1. 進捗状況

(1) 行程

- ・ドラフト開発：July 2023~January 2024
- ・公開ドラフトレビュー：February to March 2024
- ・プロジェクトの終了：April 2024
- ・公開：May 2024

となっており、成果物のドラフト作成が急務となっている。

(2) 成果物

- 1) EPs 技術仕様の API バージョン
- 2) 開発される持続可能性の主張および関連するクラスのための技術仕様
- 3) 開発し更新されたその他の関連する BIE およびコード

(3) Project scope

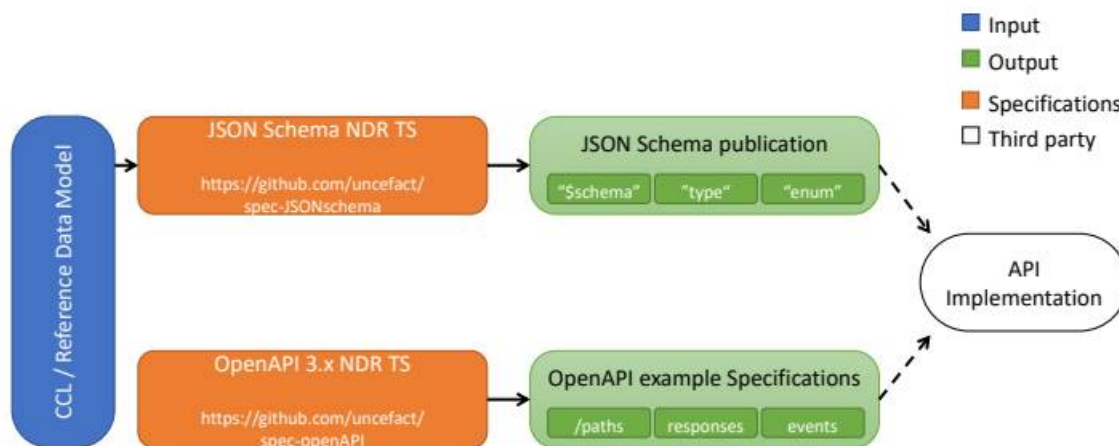
- 1) EPs プロジェクトで開発された EPs 技術仕様に基づく API フォーマットは、UN/CEFACT API 関連仕様に基づいて開発されます。
API 関連仕様は、以下を指すと考えられる。
 - ・ JSON SCHEMA NAMING AND DESIGN RULES TECHNICAL SPECIFICATION
 - ・ OPENAPI NAMING AND DESIGN RULES 3 TECHNICAL SPECIFICATION
- 2) 持続可能性の主張クラス用の BIE とそれに関連する BIE は、持続可能性関連の情報と EPs の購入者のコメントを伝えるために開発されます。
 - ・ この案件は、鈴木さんによって着実に進められています。
- 3) EPs の取引をさらに円滑にするための上記項目に関連するその他の BIE およびコードが開発されます。
 - ・ 「持続可能性情報に必要な BIE は、持続可能な観光のためのビジネス基準プロジェクトまたはその後継プロジェクトの成果物から抽出できる」とされている。

2. 今後の進め方

JSON SCHEMA NDR と OPENAPI NDR の理解のもとに、API フォーマットの開発および持続可能性の主張クラス用の BIE の開発へ向けて、会員の協力のもとにプロジェクトを進める。

以下に、API 実装への構図を示す。(from UN/CEFACT Lunch-Learn_JSON-8May2023)

UN/CEFACT API Standards



3. ゲルハルト氏による助言

JSON SCHEMA NDR と OPENAPI NDR Specification の編集者であるゲルハルト氏からは、我々のプロジェクトに親切な支援を賜っており、以下に紹介したい。

(1) 鈴木理事による参照 BIE のショートネームに関する質問

T/T ドメインの EP BIE の「サステナビリティ クレーム」と API 変換を研究している過程で、CCL のメッセージ BIE ファイルとともに参照 BIE の「ショートネーム」列に気づきました。これらの名前にはどのような機能や意味があるのだろうか。これらは API 互換の用語名にも当てはまりそうな気がします。これについてコメントをいただければ幸いです。

➤ ゲルハルト氏の回答

ご連絡をお待ちしております。短縮名は正式には CCTS 仕様の一部ではありません。通常、UNCCL Excel シートのいくつかの列がリストされますが、出力の注釈のみが目的です。短縮名は、ユーザーやデータスキーマの読者の便宜のために使用されたり、ビジネス担当者向けの技術的な UNCCL 名の代替として使用されます。これらはデータ要素名をまったく形成しません。これは、UNCCL 辞書の項目名 (DEN) に由来しています。XML または JSON NDR ルールを使用しているため、スキーマ内のデータ要素の名前は若干異なる場合があります。たとえば、UNCCL 内の DEN 名には、スペース、ドット、アンダースコアが含まれる場合があります。これは、UNCCL に基づいてメッセージを XML または JSON スキーマにエクスポートするときに「フィルター」されて除去されます。短縮名は単なる注釈であり、前述したように、ユーザーまたは実装者が短縮名ビューを使用してスキーマを読み取るのに役立つ

つ追加情報です。 UNCCCL にもビジネス用語があることに注意してください。これは別のものです。たとえば、DEN は金融機関などの技術的な名前である場合もあれば、使用されるビジネス用語として銀行である場合もあります。 サステナビリティ・クレームについては、UNCCCL 内では専門的には「サステナビリティ・アサーション」と呼ばれています。 アサーションとは、証明されていない場合でも、真実であると強く信じられているステートメントです。 製品の適合性プロジェクトは現在も進行中ですが、証明書は主張を立証するために重要な役割を果たします。 証明書は通常、何かの信頼性、正確さ、正当性を保証する正式な宣言または声明です。 これには、特定の事実の真実性または特定の要件の履行に関して、個人または団体による書面または口頭での確認が含まれることがよくあります。 言い換えれば、それは独立した当事者 (Trustpilot など) によって収集されたゲストのレビューである可能性があります。 これは、一種の証明 (体験アイテムを提供する個人または団体の主張を証明するもの) と見なすことができると思います。このため、私たちは主張の基準 (体験アイテムの特性に強く関係する) に一致するアイデアに取り組んでいます。 推奨事項 49 には、繊維製品用ではあるものの、持続可能性に関する主張 (14 ページ) を作成する方法が記載されています。 もちろん、ゲストはそのような構造化された声明を書くことはありませんが、サプライヤーはこの声明の基準を、結果が収集され、第三者によって投稿されるレビューリクエストで行われた質問にリンクすることができます。これが起こっているかどうかはわかりません。 あなたの希望では、いくつかの類似点を見つけたかっただけです。ところで、スーは、特に GEFEG ツールによって公開された標準化された API を取得するために、皆さんをサポートするものを提供してくれました。 Gefeg からの反応は今のところありません。この提供されたヘルプでそれらを覚えておくべきですか？

(2) 田中顧問による JSON スキーマの命名と設計ルールの技術仕様

今、私はあなたの文書を研究しています。

「JSON スキーマの命名と設計ルールの技術仕様」

(https://unece.org/sites/default/files/2023-11/API-TECH-SPEC_JSON_Schema_NDR_version1p0.pdf)

上記のドキュメントの 49/57 ページに示されている例を取得したいと思いました。

(<https://github.com/uncefact/spec-JSONschema/examples>)

しかし、その書類にアクセスできませんので、ご助言のほどお願いいたします。

➤ ゲルハルト氏の回答

おそらくお読みになったかと思いますが、参照データ モデル(RDM)は JSON ファイルにエクスポートされます。最近、コア コンポーネント ライブラリを D23B に更

新しました。私たちは間もなく XML 構文での作品の公開を開始し、続いて JSON スキーマでエクスポートし、そのコピーが github 環境内で利用できるようになります。私の知る限り、旅行・観光チームは、エクスポートを作成するツールが標準化された API の作成も直接処理できるかどうかを調査しています。この電子メールの CC に UN/CEFACT 副議長の Sue Probert の名前をコピーします。彼女は、旅行 API の開発に必要な EPs アーティファクトを含む最新の JSON スキーマの利用可能性と、サンプルが将来公開されるかどうかについて詳しく知っています。

以上

(文責) 観光技術検討会リード 板垣和芳